

## 平成16年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	6	学校名	県立日立工業高等学校				課程	全日制		学校長名	鈴木 茂					
教頭名	勝山 宏一								事務長名	齋藤 博道						
教職員数	教諭	42	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	1	実習教諭, 実習講師, 実習助手	14	事務職員	5	技術職員等	2	計	69
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	機械科	80	0	76	2	79	0	/		235	2	6				
	電気科	39	0	40	0	40	0			119	0	3				
	情報電子科	34	0	38	2	36	2			108	4	3				
	工業化学科	40	0	36	1	33	4			109	5	3				

## 2 目指す学校像

工業教育に必要な知識・技術の基礎・基本を重視するとともに、ものづくり等の体験的な学習や資格取得等を通して、技術者としての感性を身につけた、人間性豊かで自主性・創造性・積極性に富んだ人材の育成に努める。

教職員が一致協力して、社会人としてのルールやマナーを身につけた人間の育成に努め、地域からも企業からも信頼され、支えられる、地域に根ざした学校を目指す。

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	工業教育に対する目的意識が希薄な者が少なからずおり、生徒自らが意欲をもって学習する充実した環境が十分でない。	生徒一人一人の特性や興味・関心に基づく学習指導の工夫・改善をどう進めるか。
進路指導	就職・進学希望者がほぼ半々の現状のなかで、両者に十分対応できる指導体制になっていない。	専門能力育成を主とした上で、大学進学等の進路希望に応える指導をどう推進するか。
生徒指導	社会人として必要な基本的な生活習慣、生活態度、公共のマナーが十分でない。	規律ある生活態度、規範意識の高揚、また他者への思いやりの心の育成をどう推進するか。
特別活動	HR活動、生徒会・委員会活動等が十分でない。	生徒の自主的・積極的な取組みをどう推進するか。

## 4 中期的目標

- 1 生徒一人一人の個性を生かし伸ばす学習指導を推進し、個に応じた確かな学力を身につける。
- 2 生活指導や特別活動を充実させ、社会人として必要なマナーや態度を身につけるとともに、自主性・創造性・積極性を育成する。
- 3 専門高校としての使命や企業・大学等のニーズに対応した進路指導を推進する。
- 4 本校教育の特色化を推進する。
- 5 「ものづくりを通じた人づくり」の工業高校の特色や、普通高校にはない工業高校の魅力を積極的に中学生や保護者、地域にPRする。

## 5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	生徒一人一人の個性を生かし伸ばす 学習内容、指導法の改善・実施 全教員による一体化した生活指導の 徹底 3年間を見通した進路指導の年次計 画の立案・実施 生徒の自主的・積極的な運営による 学校行事の実施	授業改善に努め、生徒に基礎的・基本的な学力や技術・技能を身に つけさせ、学ぶ意欲の高揚を図る。 HR・特別活動・集会等、日常的指導を通してあいさつ・礼儀・ル ール・マナーが身につくよう、全教員一体となって指導する。 3年間の計画的・継続的な進路指導計画を作成し、早期の進路希望 の決定とその実現を図る。 クラスマッチ・日工祭の企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の 自主性を尊重した学校行事を実施する。	
2年次	基礎的・基本的な学力を身につけさ せる「わかる授業」の実践 規範意識の確立や人権尊重の精神の の涵養を図る取り組みの実施 望ましい職業観・勤労観を育成する 進路指導の実践 HR活動、委員会活動の充実及び部 活動の活性化	「わかる授業」の工夫や改善、また、生徒が興味・関心を持つ教育 内容を作るための校内研修等を実施する。 ボランティア活動等の体験活動に取り組むことや「HR指導資料」 を活用したHRの充実を図る。 インターンシップを全生徒に拡大・充実し、成就感や目的意識の喚 起を図り、社会に役立つ確かな知識・技術を身につけさせる。 リーダーシップ向上のための研修会などへの参加の促進及び部活動 全体のレベルアップを図る。	
3年次	生徒の進路希望に応じた教育活動の 展開 「心のふれあい」を重視した生活指 導の実践 進路指導資料「進路のてびき」の見 直しの実施 小・中学校や地域社会との連携の推 進	習熟度別・少人数編成授業、自由選択科目の導入を通して、生徒一 人一人の進路希望の実現を図る。 学校生活のあらゆる場を通して「心のふれあい」を重視し、親身な 指導を実践する。 「進路のてびき」を、入学当初の適応指導から卒業時の進路選択ま で継続的に使用できるよう見直しを行う。 小・中学生への「ものづくり教室」や地域社会への「開放講座」を 推進し、地域に根ざした学校の実現を図る。	